

800 **4. 令和5年度の学校関係者評価の概要**

801 本年度も令和5年7月25日と12月1日の計2回、「学校関係者評価委員会」並びに「教育課程
802 編成委員会」を開催た。また、3月にはコロナ感染症が終息しつつあること受け、4年ぶりに両委
803 員をお招きし卒業研究・卒業制作を中心とした「学修成果報告会」ならびに「学修成果成果展示」
804 をを再開することができた。以下に本年度の学校関係者評価委員会の概要を公開する。

805

806 **1. 2023(令和5)年度 第1回学校関係者評価委員会**

大項目		
基準1 教育理念・目的・ 育成人材像	R04 自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第2回)	教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要があり、科を超えた取り組みであるため、校全体で取り組んでいく。 中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関し、これからの人材育成の方向性を探る専門人材未来会議(10/26 第6回実施)の内容に関し報告を行う。 DX 社会をワクワクさせる学校の実現には、他科との交流が有効であり、コロナ終息後は未来会議も学生も聴講できるようにすべきとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第1回報告)	中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関し、分野横断および分野深堀の2つの提案スキームに関し報告を行う。
	本回学校関係者評価 (R05 年度第1回意見)	DX 社会をワクワクさせる学校づくり、特に分野横断の取組は本学の強みであり、スピード感を持って取り組むべきとの指摘をいただく。また、グローバル化が進む中、国際的な視野を持つ人材育成が重要と意見をいただく。
基準2 学校運営	R04 年度自己評価	3.4/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第2回)	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切な運営を行っている。 専門学校を取り巻く状況を概説し、それをふまえた上で、本年度における Covid-19 への対応および募集・教育・就職に関する進捗報告を行う。 専門学校を取り巻く状況を概説し、それをふまえた上で、本年度における募集・教育・就職に関する進捗報告を行う 4月に開講したデータサイエンス+AI科およびIoT+AI科の運営状況に関する質疑をいただく。また、新学科の実績として内定先企業が重要になるので、学生の就職活動をしっかり支援するよう指摘をいただく。 また、大和ハウスとの連携を行っているが、他のハウスメーカーやゼネコンとの連携を進めるべきとの助言をいただく。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第1回報告)	昨年度の募集・教育・就職に関する結果報告を行う。また、本年度は、共感される学校創り、自己改善できる学校創り、DX をワクワクさせる学校づくりをテーマに、募集・教育・就職活動に取り組む方針であることを報告する。
本回学校関係者評価 (R05 年度第1回意見)	DX 社会をワクワクさせる学校づくり、特に分野横断の取組は本学の強みであり、スピード感を持って取り組むべきとの指摘をいただく。	
基準3 教育活動	R04 年度自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R04 年度第2回)	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関してはかな

		<p>り力を入れて取り組んで、自己評価報告書の「第Ⅱ章 2. 本校における教育質保証システム」であげられたコマシラバスや授業シートのような取り組みも独自の取り組みとして評価できる。</p> <p>本年度の教務指標（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）および就職活動上記用に関し報告を行う。</p> <p>また本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組んでおり、その進捗も報告する。</p> <p>2年制の専門課程では導入は簡単ではなく3年課程にするなどの工夫が必要だが、インターンシップ等実際の仕事の現場に触れる機会が設けられるとよいと助言をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	<p>昨年度の教務指標結果（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）に関して、問題の早期発見、解決に取り組み、改善できたことを報告する。特に退学率は3年ぶりに5.0%以内を達成できなかったことを報告する。</p> <p>また、本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組む、さらに教育の質向上に取り組む方針であることを報告する。</p>
	今回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	<p>退学率が3年ぶりに5.0%を超えたことの原因がどこにあるか疑問をいただくとともに、大学全入の中、教育の中身をよくすること、良い人材を輩出することに集中すべきとの意見をいただく。</p>
基準4 学修成果	R04年度自己評価	3.0/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第1回)	<p>就職率の向上プロセスについては概ね満足できる水準に達している。一方で、資格・免許取得率の向上に関しては、最低目標の達成に終始することなく、総合的な支援策を講じる必要がある。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため今後は組織として体制を整えていく必要がある。</p> <p>本年度の教務指標（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）および就職活動上記用に関し報告を行う。</p> <p>また本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組んでおり、その進捗も報告する。</p> <p>学修の成果・エビデンスとして卒業生の活躍率・エンゲージメント指数等を示すのが有効であるとの助言をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	<p>本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、授業改善手法の開発および学習成果の見える化に取り組み、さらに学修成果を上げる方針であることを報告する。</p>
	今回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	<p>学修の成果・エビデンスとして卒業生の活躍・企業からの評価・活躍率を示すのが有効である。また、卒業後離職しないことも重要との指摘をいただく。</p>
基準5 学生支援	R04年度自己評価	3.3/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第2回)	<p>就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。</p> <p>新修学支援制度および教育訓練給付・専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する進捗を報告する。</p> <p>これまでの取り組みで問題は無いと評価をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	<p>新修学支援制度および教育訓練給付・専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する報告を行う。また、本年度もこれらの取り組みを継続する方針であることを報告する。</p>
	今回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	<p>上記取り組みで問題は無い。</p>
基準6 教育環境	R04年度自己評価	3.7/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第2回)	<p>施設・設備・教育用具等は、概ね満足できる水準に達している。</p> <p>Covid-19への対応に関し、授業および行事等の学事日程の進捗状況、職域接種の実施等感染防止対策を中心に報告を行う。本年度も、学修環境の維持し学びの継続に努めることを報告する。</p> <p>Covid-19への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める方針であることを報告する。</p> <p>Wi-fi環境が脆弱である点、改善すべきとの指摘をいただく。</p>

	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	Wi-fi環境の改善およびCovid-19への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	上記取組みで問題ないとの評価をいただく。
基準7 学生の募集と受入れ	R04年度自己評価	3.5/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第2回)	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。 昨事業計画に「共感される学校づくり」を掲げ取り組んでいる学生募集に関し昨年度より低調に進捗していることを報告する。 退学率が増えていること、推薦入学の増加で学力が低下していること、また精神的に弱い学生が増えていることを鑑み、入学後の学科変更を容易にするなど学内の受入れ体制を強化すべきとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	昨年度の学生募集状況を報告するとともに、本年度も事業計画に「共感される学校づくり」を掲げ、広報活動に取り組む方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	募集ターゲットを、リカレント層・地方・総合高校などへ拡大すべきとの指摘をいただく。また、募集ツールもSNSやYouTubeとの活用を含め拡大すべきとの意見をいただく。
基準8 財務	R04年度自己評価	3.6/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第2回)	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報も含み、職業実践専門課程様式4に関し、本年度も7月末日付で公開を行うことを報告する。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	財務情報も含み、職業実践専門課程様式4に関し、本年度も7月末日付で公開を行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	上記取組みで問題は無い。
基準9 法令等の遵守	R04年度自己評価	3.1/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第2回)	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。職業実践専門課程様式4に関し、本年度も7月末日付で公開を行う。上記取組みで問題は無い。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	職業実践専門課程様式4に関し、本年度も7月末日付で公開を行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	上記取組みで問題は無い。
基準10 社会貢献・地域貢献	R04年度自己評価	3.5/4.0
	前回学校関係者評価 (R04年度第2回)	本年度のRJPの活動状況に関し、2期の問題発見プログラム・3期の問題解決企画プログラムをとおして設定された各科の課題に関し報告を行う。 本年度のRJPの活動状況に関し、2期の問題発見プログラム・3期の問題解決企画プログラムをとおして設定された各科の課題に関し報告を行う。 RJPは各科のコラボレーションがなく残念である。IoT分野は連携しやすい分野であるので、積極的に連携を検討すべきとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第1回報告)	昨年度のRJPにおける地域連携・企業連携に関する報告を行う。また、本年度も同様な取り組みを行うことを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第1回意見)	RJPは、自由に研究する場所・時間を提供する意味で重要な教育活動であるとの意見をいただく。

807

808

2. 2023(令和5)年度 第2回学校関係者評価委員会

大項目		
基準1 教育理念・目的・ 育成人材像	R04 自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R05 年度第1回)	<p>教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要があり、科を超えた取り組みであるため、校全体で取り組んでいく。</p> <p>中期計画、DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関し、分野横断および分野深堀の2つの提案スキームに関し報告を行う。</p> <p>DX 社会をワクワクさせる学校づくり、特に分野横断の取組は本学の強みであり、スピード感を持って取り組むべきとの指摘をいただく。また、グローバル化が進む中、国際的な視野を持つ人材育成が重要と意見をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第2回報告)	本年度の3つの方針、共感される学校づくり・自己改善できる学校づくり・DX 社会をワクワクさせる学校づくりに関する取り組み内容に関し報告を行う。
	今回学校関係者評価 (R05 年度第2回意見)	今後の日本の産業界にとって留学生の受入れ、定着はとても重要なことである。専門学校での留学生受入れとともに、この受入れが日本人学生にも良い影響が与えられる流れをつくるべきとの意見をいただく。
基準2 学校運営	R04 年度自己評価	3.4/4.0
	前回学校関係者評価 (R05 年度第1回)	<p>学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切な運営を行っている。</p> <p>昨年度の募集・教育・就職に関する結果報告を行う。また、本年度は、共感される学校創り、自己改善できる学校創り、DX をワクワクさせる学校づくりをテーマに、募集・教育・就職活動に取り組む方針であることを報告する。</p> <p>DX 社会をワクワクさせる学校づくり、特に分野横断の取組は本学の強みであり、スピード感を持って取り組むべきとの指摘をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第2回報告)	専門学校を取り巻く状況を概説し、それをふまえた上で、本年度における募集・教育・就職に関する進捗報告を行う
	今回学校関係者評価 (R05 年度第2回意見)	日々の授業および補講に加え、高専連携授業等先生方の業務が増えているように感じる。働き方改革の中で難しいことではあるが、先生方が働きやすく、学生たちにプラスになるような運営をすべきとの意見をいただく。
基準3 教育活動	R04 年度自己評価	3.8/4.0
	前回学校関係者評価 (R05 年度第1回)	<p>教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関してはかなり力を入れて取り組んで、自己評価報告書の「第II章 2. 本校における教育質保証システム」であげられたコマシラバスや授業シートのような取り組みも独自の取り組みとして評価できる。</p> <p>昨年度の教務指標結果（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）に関して、問題の早期発見、解決に取り組む、改善できたことを報告する。特に退学率は3年ぶりに5.0%以内を達成できなかったことを報告する。</p> <p>また、本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組む、さらに教育の質向上に取り組む方針であることを報告する。</p> <p>退学率が3年ぶりに5.0%を超えたことの原因がどこにあるか質疑をいただくとともに、大学全入の中、教育の中身をよくなるこ</p>

		と、良い人材を輩出することに集中すべきとの意見をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第2回報告)	本年度の教務指標（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）および就職活動上記用に関し報告を行う。 また本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組んでおり、その進捗も報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第2回意見)	退学率が常に問題となるが、その原因には学習面のつまずきのほか、専攻分野とのミスマッチを挙げる学生も多い。高専連携の取組みは、専攻分野とのミスマッチをなくすよい手段であり、高校生にとっても有意義な取り組みであると評価をいただく。
基準4 学修成果	R04年度自己評価	3.0/4.0
	前回学校関係者評価 (R05年度第1回)	就職率の向上プロセスについては概ね満足できる水準に達している。一方で、資格・免許取得率の向上に関しては、最低目標の達成に終始することなく、総合的な支援策を講じる必要がある。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため今後は組織として体制を整えていく必要がある。 本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、授業改善手法の開発および学習成果の見える化に取り組み、さらに学修成果を上げる方針であることを報告する。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第2回報告)	本年度の教務指標（出席率・課題発生数・課題残率・退学率）および就職活動上記用に関し報告を行う。 また本年度も自己改善できる学校づくりをテーマに、学生へのフォロー体制の再構築に取り組んでおり、その進捗も報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第2回意見)	IoT+AI科のヒーローズリーグ入賞作品は、科の特徴を示す良い学習成果である。またその紹介動画をWeb動画クリエイター科が連携したり、バイオテクノロジー科が培養した大腸菌のコロニーをIoT+AI科がAIで自動カウントするシステムを開発する等の学科連携はすばらしいことである。こうした学科連携をとおして学生がワクワクし、探究心が高まり、意欲が高まることにつながるのではないかと評価をいただく。
基準5 学生支援	R04年度自己評価	3.3/4.0
	前回学校関係者評価 (R05年度第2回)	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。 新修学支援制度および教育訓練給付・専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する報告を行う。 上記取り組みで問題は無いとの評価をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第2回報告)	新修学支援制度および教育訓練給付・専門人材育成訓練等のリカレント教育に関する報告を行う。また、本年度もこれらの取り組みを継続する方針であることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第2回意見)	専門人材育成訓練の対象性は
基準6 教育環境	R04年度自己評価	3.7/4.0
	前回学校関係者評価 (R05年度第1回)	施設・設備・教育用具等は、概ね満足できる水準に達している。 Covid-19への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める方針であることを報告する。またWi-fi環境が脆弱である点、早急に調査・改善すべきとの指摘をいただく。 Wi-fi環境の改善およびCovid-19への対応を含め、本年度も学修環境を整備に努める方針であることを報告する。 上記取り組みで問題は無いとの評価をいただく。
	上記指摘を踏まえた学校の対応 (R05年度第2回報告)	本年度も設備投資計画および学生アンケートの意見に基づき環境整備を行っていることを報告する。
	本回学校関係者評価 (R05年度第2回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準7	R04年度自己評価	3.5/4.0

学生の募集と受入れ	前回学校関係者評価 (R04 年度第 1 回)	<p>学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。</p> <p>昨年度の学生募集状況を報告するとともに、本年度も事業計画に「共感される学校づくり」を掲げ、広報活動に取り組む方針であることを報告する。</p> <p>募集ターゲットを、リカレント層・地方・総合高校などへ拡大すべきとの指摘をいただく。また、募集ツールも SNS や YouTube との活用を含め拡大すべきとの意見をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第 2 回報告)	本年度の学生募集状況に関し報告を行う。
	今回学校関係者評価 (R05 年度第 2 回意見)	コロナ感染症の終息を受け留学生の志願者が増えているとの報告だが、今後の日本の産業界にとって留学生の受入れ、定着はとて重要なことである。専門学校での留学生受入れとともに、この受入れが日本人学生にも良い影響が与えられる流れをつくるべきとの意見をいただく。
基準 8 財務	R04 年度自己評価	3.6/4.0
	前回学校関係者評価 (R05 年度第 1 回)	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報も含み、職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第 2 回報告)	財務情報も含み、職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行ったことを報告する。
	今回学校関係者評価 (R05 年度第 2 回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準 9 法令等の遵守	R04 年度自己評価	3.1/4.0
	前回学校関係者評価 (R05 年度第 1 回)	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行うことを報告する。
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第 2 回報告)	職業実践専門課程様式 4 に関し、本年度も 7 月末日付けで公開を行ったことを報告する。
	今回学校関係者評価 (R05 年度第 2 回意見)	上記取り組みで問題は無い。
基準 10 社会貢献・地域貢献	R04 年度自己評価	3.5/4.0
	前回学校関係者評価 (R05 年度第 1 回)	<p>昨年度の RJP における地域連携・企業連携に関する報告を行う。また、本年度も同様な取り組みを行うことを報告する。</p> <p>昨年度の RJP における地域連携・企業連携に関する報告を行う。また、本年度も同様な取り組みを行うことを報告する。</p> <p>RJP は、自由に研究する場所・時間を提供する意味で重要な教育活動であるとの意見をいただく。</p>
	上記指摘を踏まえた 学校の対応 (R05 年度第 2 回報告)	本年度の RJP の活動状況に関し、2 期の問題発見プログラム・3 期の問題解決企画プログラムをとおして設定された各科の課題に関し報告を行う。
	今回学校関係者評価 (R05 年度第 2 回意見)	RJP は、企業や地域とコラボレーションすることで、学生が直接仕事を感じられる良い機会であるとの評価をいただく。その一方、地方との連携や、希薄になっている学科間の異分野コラボレーションにも積極的に取り組むよう意見をいただく。

811

812

813

814